

うちなーぐち

かわら版

沖縄語を話す会会報

第17号

2012年12月1日発行

会長 山路安清

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-kuni@nifty.com 國吉真正

電話 & F a x 044-988-8065



しーし「さいおんスクエアぬまぎしーし」

「^{おきなわご}沖縄語を話す会」^{はなかい}月に二回集ま^{ちち}て^{たけんあち}ぬ勉強会、^{びんちよーい}品川^{しながわ}ぬ^{あーさき}大崎をて

- ・^{わたー}我っ^{くどば}達んめ一言葉-----澤岬弥生
- ・^{うちなーぐちなら}沖縄口習^{いち}たるうじゅみ(1)-----笹本美恵
- ・会報に出てきた語句の説明
- ・事務局から

会報の名称を「沖縄語かわら版」から「うちなーぐちかわら版」に変えました

ホームページ <http://www.wwq.jp/p/>
沖縄語教育支援文庫 <http://www.wwq.jp/q/>

わ 我んねー、しちにんめー おーさか ち 七年前に大阪からっ来、うちなー ちゅ ちゅみ 沖繩ん人ぬ嫁
な 成とーいびーん。

くさて方考てー、たくし 澤岬ぬんめーや、うちなーくち 沖繩口さーに御
はなし 話さびーくと、やーにんじゅ うはなしえ 沖繩口と大和口
ちか 使とーいびーたん。

わ 我んねー、ゆみな 嫁成てちやーけー、やまとくち 大和口っしと御話ー、
な 成いびーたる。うちなーくち 沖繩口ぬ分からんたくと、なー、い
てー っペー手はごーさいびーたん。あんし、んめーと、ちむ 肝
ぬゆちやーゆるくど うはなし 欲さぬ、うちなーくちなら 沖繩口習い
はじ 始みやびたん。

な 那覇なかいある「うちなーくち 沖繩口サークル・チーム 琉球」
んかい入っち、びんちよー 勉強そーいびーん。

うぬ会をて、くによしんしよー 國吉真正さぬんかい御行逢持て、
ちゅ くん ぶんぼー わ やっ ぶんぼー ぶんぼー
うん人が、声ぬ出じゃし様から文法んでー、分かい易
さるくど なら ち 呉みしえーいびーん。むるうと 諸受き取り
たみ 為ねー、どち 時ぬかかゆしが、呑み込むしえー、たった
ま 益し成て来よーいびーん。また わ 分からん所ぬあいね
どー ー、問やびーしが、ちやー丁寧に返答しみしえーい
びーん。

わ 我んねー、くによし 國吉さぬんかい心からにぬーうんぬきや
びーん。

うちなーくち 沖繩口受き取る為に、ちば 気張とーいびーしが、わん
たー エピソード二ちびけーんうんぬきやびら。

(1) あんし嬉さらー、なーふん。

なま 今ぬ沖繩をてー、うっ 嬉さっし ゆるく 喜どーる様子ー、『ウ
ッサスル。』んて言ちよーいびーん。

『昨日からウッサしてからさあー。』んて言葉遣ーさ
びーん。『昨日からウキウキしているよ。』んて言ち
むえーやいびーん。

あんし、わ 我んねー、『ウッサ。』んて言しえー、『嬉さ
ん。』て言ちよーいびーたん。

どち くと
ある時ぬ事やいびーん。

わ 我っ達んめーや、うぶ 腕ぬ骨折て、いさき やー い 医者ぬ屋かい入っち無
ーやびらん。わ 我んねー、どんじゃく 頓着っし物うさぎゆるくどな
いびたん。

うさがて、なー、いーくる半ら成たる時分に、うぬん
めーや、「なー、ウッサ。」んて言みしえーいびーたん。

わ 我んねー、『ウッサ。』んて言しえー、『嬉さん。』て言
とーいびーくと、んめーや、わ 我んが御ぶんうさぎとー
しえー、『嬉さそーみしえーさやー。』んて思て、「あ
んし嬉さそーみしえーらー、なーふんうさがみそーれ
ー。」んて言ち、うぶ 御ぶん口んかいばんない入りやびた
ん。あんさくと、うぬんめーや、くち 口ぬ満ちちやかーん

う 御ぶんぬ入っち、い 大声さーに「なー、ウッサ。」なー、
ウッサ。」んて言ち無ーやびらん。

うぬんめーや、うぶ 大声さーに幾回ん言みしえーくと、
いっペー嬉ささやーんて思やびたん。

あと 後ぬうじゆめー、うぬんめーや、わ 居たら我ん
にんかい「もうおしまいってことだよ。(怒)」んて、
やまとくち 大和口さーに言みしえーいびーたん。

く 此ぬ如ーる場ねー、「ウッサ。」んて言しえー、やまと
くち 口さーに「それだけ。」んて言ちむえー成とーいび
ーんやー。「なー」んて言しえー、やまとくち 大和口さーに「も
う」んて言ちむえーやいびーんやー。

あんすくと、んめーや、「なー、ウッサ(もうそれだ
け)」やんて言ち、ちむえーやいびーてーさやー。

んめー、く 御無礼さびたん。くねーて呉みそーりよー。

(2) 魂 込みて。

うちなー 沖繩をてー、どく 驚ちーねー、『タマシヌギタン。』
て言ちしえーやー。うりから、やまとくち 大和口ぬ『心無い。』
んかえー、うちなーくち 沖繩口さーねー、『タマシヌネーラン。』
て言ちしえーやー。

あんすくと、わ 我んねー、く 此ぬ『タマシ。』んて言しえ
ー、やまとくち 大和口さーに「魂。」又「注意し思慮する心。」ん

で言うちむえーどやるんで思とーいびーたん。

此ぬ頃んし、石垣をて、沖縄からめんそーちよー
る知り合ーぬんめーど御行達さびて、ゆんたくはん
たくそーいびーたん。うぬんめーや、「はい、ワタ
マシ」んで言みそーち、持っちょーたるくにぶ我んに
んかい呉みしえーいびーたん。

我んねー、ふるまさまぬ何んち、『ワタマシ。』んで言
みしえーいびーがやー。『蜜柑がおばあちゃんの
魂??』んで言しえー、何やがやー。

うぬんめー真心んかい肝打たつたる我んねー、「おば
あちゃんの魂と同じくらい大切な蜜柑をありがと
う。」んで言びたくど、なー、しちりふーり笑ーりや
びたん。

あんし、『タマシ。』んで言しえー、「取り分。持ち分。」
んで言う、ちむえーどやんどーやーんち、うぬんめー
が習ーち呉みしえーいびーたん。

うぬ後、いふ一書物調べて見じゃびたしが、『タマ
シ。』んで言しえー、『魂。』ぬ他に『取り分。持ち分。』
んで言う、ちむえーぬある風儀やいびーん。

うぬんめーや、蜜柑ー『魂。』やあらん如、『我ん分
き分。』んで言ち、我んにんかい分きて呉たる場どやい
びーたる。『タマシ。』んで言しえー、なー銘銘んかい、
わぶん分ぬ呉らつとーんでぬ御話ぬある風儀やいび
ーん。又、一ちえー、沖縄口ぬ勉強成いびたん。

此ぬ二ちぬエピソードー、ちゃーやいびーたがやー。
やっどかつど、いふ小や、我んねー、んめーど沖縄口
さーに御話ぬ成いんで思とーたるむんぬ、去年、く
さで方ぬ澤岨ぬんめーや、此ぬ世失みしえーいび
ーたん。

なー、我んにんかえー、沖縄口んで言しえー、ん
めー大切な言葉んやい、うぬ言葉ぬ一言一言な
かえー、んめー情愛ぬあて、肝んかい残とーる色々
な事思出じゃさびーん。

此りからー、孫ぬ嫁成たる我んいっぺー愛さっし
呉みそーちやるんめーんかい、にふーうんぬきて、
沖縄口なーふん勉強っし行けーやーんで思とーい
びーん。

(うわい)

沖縄口習たるうじゅみ(1)

笹本美恵 (小金井市)

我んねー、東京をて生まりやびたん。
我つ達たんめー達や、仕事ぬ関わいっし、田舎から東
京かい来やーびたん。

あんし、あやーん、たーりーん、なー銘銘ぬ田舎をて、
暮らちょーいびーたん。

あやーん、たーりーん、小学校から高校まで田舎な
かい居いびーたしが、上ぬ学校かい行ちゆんち、
東京かい来やーびたん。

上ぬ学校ん終わて、仕事歩ち、あやーや、東京をて、
夫持っち、うぬまま東京をて、暮らす如成いびた
ん。

あんすくど、我つ達二人ぬ親ー、田舎ぬ言葉ん、じ
よーま言葉んあんすか上手ーあいびらん。

田舎をてー、我つ達二人ぬ親ー、んめー、たんめー、
うりからあーかぬ達ぬ御話ー、聞ちゆーさびーし
が、御話すしえー、難さんでぬ事やいびーん。

又東京をてん、じよーま言葉さーに御話すしえー、
すつえーちやる為枯らしぬある風儀やいびーん。

あんし、二人ぬ親ー、どーぬ童ん達んかえー、い
ぬ如難儀くんじしみー欲しこー無ーんでが思とーた
ら、我んねー、言葉遣ーや、いっぺー躰きらりやび
たん。

やいびーしが、我んにんかえー、んめー、たんめー
達が、田舎言葉さーに御話聞かち呉みしえーる昔

物語んでーや、いっぺーあーりきさんあい、肝引ち
寄しーる力ぬあて、じょーま言葉とー、変わとーる
言葉遣ーやいびーくと、すーみぬあいびーたん。

他ぬ田舎ぬいふなし、昔物語んでーやでん、じょ
ーま言葉さーに書かっどーるむんやか、んまぬ田舎言
葉さーに書かっどーしがど、いっぺーすーみぬあいび
ーたる。

ちむえーや、しっかど分かるむのー、あいびらんし
が、言葉ぬ持っちょーるニュアンス、響ぬ宜さぬ楽
しどーいびーたん。

何んち沖繩口習とーがんで言う事にちーて、うん
ぬきやびら。

前ぬ会長やみしえーたる城間朝昌さんが、日本
経済新聞ぬ文化欄なかい「沖繩語を話す会」ぬ働ち
にちーて、載してーいびーたん。

我んねー、うり読で、うぬ会んかい、ぬばかいびたん。
すーみぬあるっ人ー、誰やでんめんそーれーんでい
ち、書かっどーいびーたん。

あんすくと、我んねー、初みて行ちゆる所どやいび
ーたしが、電話ん掛きらん如、直ぐあったにうぬ「沖
縄語を話す会」ぬ会場ぬあたる那覇市東京事務所
かい押し掛きて訪にやびたん。

今から考ーいねー、赤面成いるあた、いっぺー恥
じかさる事やいびーたん。

うんにーねー、城間朝昌さん、山路安清さん、船
津好明さん、仲真恒子さん、うりから仲井真格さん
達が、あぬーくぬーそーる女ん子、いっぺー丁寧
に迎で呉みしえーいびーたん。

なー、いっぺー嬉さんあい、語らで呉みそーち、うぬ
恩義ー、今やでん忘らん、有難ー事やんで思とー
いびーん。

我んねー、童そーいに見ちやる忘らん「日本地
図」ぬあいびーん。

んめー、たんめー達家ぬ奥ぬ座や、童ん達が、
使とーたる座やいびーしが、捨でらん何やーく、
やーぬ道具ひょーぐ入で、平生や、さーし入で
ーいびーたん。

何がなんでる場に、あやーが、うぬ座かい入ち行
じゃくと、我んねー、くさーから追で行ちやびたん。
うぬ座ぬ片隅なかい掛きらっどーる「日本地図」ど
やいびーん。

うぬ「日本地図」見ちやれー、沖繩や、入ちえー居
いびらんたん。一番南むてー、与論どやいびーたる。
なーふん南むてなかせー、何ん無ーやびらんたん。

我んが小学校歩ちゆるまんぐるからー、沖繩や、
大和んかい帰とーいびーたくど、学校をで習いる書
物なかせー、沖繩ん、「日本地図」なかいしかっど入
っちょーいびーたん。

座なかい掛きらっどーたるうぬ「日本地図」なかせ
ー、沖繩や、何んち無ーんがやー。何ぬあて、かん成
たがやーんち、我んねー、いっぺー肝掛きとーいび
ーたん。

日んかい焼きて、色抜きとーる「日本地図」どやい
びーたしが、うさーりーる思いやいびーたん。

此ぬ如ーる事ぬあて、我んねー、童ながら他ぬ
田舎んかい思い寄して、いっぺー珍さどあくど、す
ーみぬあて、たった沖繩ぬ事んかいふちやーさりー
る如成いびたん。

家人衆どまじゅーん沖繩かい行ちゆるん事ー、無
ーやびらんたくど、精一杯、図書館をで、読まりー
る書物ど読どーいびーたる。

やいびーしが、我んねー、学校ん終わで、仕事歩ち
ゆるまんぐるからー、東京神田ぬ古書物屋をで、書
物どめーたい、又、うんにーねー、沖繩ブーム成と
ーたくど、沖繩音楽ぬCD買で、うり聴ちょーいび
ーたん。

あんし、^{うちなー ぶん ぶん}沖縄文化、^{なれ}習一、^{くどばちけ}うりから言葉遣一んで
 一かい、^{ゆくんすーみぬあいびたん}ゆくんすーみぬあいびたん。
^{くる しんぶん}うぬ頃、^ぬ新聞んか^{くしくま ちよーしよー}載しらつと一たる城間朝 昌さ
 んぬ^{きじものが}記事^{ちぢ}拝まびたん。
 (続ちゆん)

会報に出てきた語句の説明

- ・んめー：おばあさん。祖母。
- ・くさ^{かた}方：夫のかた。嫁入りの先の方。
- ・嫁成^{ゆみな}て^なちゃーき：嫁になってすぐ。
- ・沖縄口^{うちなーぐち}さーに：うちなーぐちで。
- ・いっぺー：たいそう。非常に。たいへん。
- ・手は^{てー}ごーさん：はがゆい。もどかしい。
- ・肝^{ちむ}ぬ^なゆ^なちゃーゆん：心が合う。気が合う。
- ・御行^{みーちえーちが}逢^あ拝^はむん：お会いする。拝顔する。
- ・文^{ぶんぼー}法^{ぽう}んでー：文法など。
- ・た^たった：次第に。
- ・た^まった^ま益^なし^な成^なゆん：だんだん良くなる。
- ・ちゃー：いつも。
- ・に^ぬー：ありがたく思うこと。感謝すること。
- ・う^うんぬ^んき^きゆん：申し上げる。目上に言うことの敬語。
- ・び^びけーん：ばかり。
- ・な^なー^いん：もっと。さらに。
- ・ち^ちむ^むえー：意味。わけ。
- ・頓^{どんぢやく}着^{ちやく}：取扱い。看病。
- ・う^うさ^さぎ^ぎゆん：差し上げる。
- ・う^うさ^さが^がゆん：召し上がる。
- ・ば^ばー^くる：おおよそ。大方。大体。
- ・御^うぶ^ぶん：ご飯。
- ・ば^ばん^んない：どんどん。勢いがよいさま。
- ・あ^あん^んさ^さく^くど：そうしたら。
- ・満^みっ^つち^ちゃ^ゃか^かー^ん：いっぱい。満ちているさま。
- ・後^{あと}ぬ^ぬう^うじ^じゆ^ゆめー：あげくの果ては。結局は。
- ・わ^わじ^じゆ^ゆん：沸く。腹を立てる。
- ・あ^あん^んす^すく^くど：それだから。だから。
- ・く^くね^ねー^ゆん：こらえる。仲直りする。
- ・ど^どく：あんまり。ひどく。
- ・め^めん^んし^しえ^えー^ん：いらっしゃる。おいでになる。いる・行く・来るの敬語。
- ・め^めん^んそ^そー^ちよ^よー^るん^んめ^めー：いらっしゃっているおばあさん。
- ・ゆ^ゆん^んた^たく^くは^はん^んた^たく：むやみにしゃべるさま。
- ・く^くに^にぶ^ぶ：オレンジ類の総称。蜜柑など。
- ・ふ^ふい^いる^るま^まさん：不思議である。
- ・肝^{ちむう}打^うたり^りゆ^ゆん：心を打たれる。
- ・し^しち^ちり^りふ^ふら^らー^り笑^{わら}ゆ^ゆん：腹を抱えて笑う。
- ・い^いふ^ふー：少しは。
- ・な^{めーめー}ー^め銘^{めい}銘^{めい}：銘銘。各自。
- ・や^やつ^つど^どか^かつ^つど：やっど。ようやく。
- ・い^いふ^ふい^い小^こ：ほんの少し。
- ・う^うじ^じゆ^ゆみ：はずみ。機会。きっかけ。
- ・た^たん^んめ^めー：祖父。
- ・あ^あや^やー：母。おかあさん。
- ・た^たー^りー：父。お父さん。
- ・じ^じょ^ょー^ま：規格。標準。
- ・じ^じょ^ょー^ま言^{くどば}葉^ば：標準の言葉。
- ・あ^あん^んす^すか：それほど。
- ・ゑ^えー^かぬ^ぬ達^{たち}：親戚たち。
- ・～^ゆー^すん：～することができる。
- ・聞^ちち^ちゆ^ゆー^さび^びー^ん：聞くことができます。
- ・す^すつ^つく^くー^すん：困る。
- ・す^すつ^つく^くー^ちゃ^ゃる^る為^{しか}枯^からし：困った経験。
- ・ど^どー^ぬ童^{わらび}ん^ん達^{たち}：自分の子供たち。
- ・い^いぬ^ぬ如^{くど}：同じように。同様に。
- ・難^{なんじ}儀^じくん^ん儀^ぎ：たくさんの難儀。多くの苦労。
- ・ゑ^えー^りき^きさん：面白い。楽しい。

- ・すーみ：興味。
- ・い^らな^し：伝説。又、教訓的な話。説話。
- ・しかつど：しっかりと。しっかりと。
- ・ぬばがゆん：ちょっと覗く。ちょっと顔を出す。
- ・あつたに：にわかに。不意に。いきなり。
- ・あたい：くらい。ほど。
- ・うんにーねー：そのおりに。その時には。
- ・あぬーくぬーすん：しどろもどろになる。
- ・語^{かた}らゆん：仲間に入れる。味方に引き入れる。
- ・何^ぬやーくーやー：何やかや。
- ・道具^{どく}ひょーぐ：あらゆる道具。道具一切。
- ・さーし：錠。
- ・くさー：後ろ。背後。
- ・南^なむ^て：南の方。
- ・まんぐる：頃。おおよその時を示す。
- ・肝^{ちむ}掛^がきゆん：心掛ける。
- ・うさーりゆん：圧倒される。
- ・ふ^いちゃーさりゆん：引き合わせられる。よい運命に引き合わせられる。
- ・まじゆーん：一緒(に)。共(に)。
- ・どめーゆん：拾う。求める。
- ・習^{なれ}ー：習わし。習慣。
- ・ゆくん：さらに。なお。

*本文では、語句は活用されているのもありますので、ここに示しました語句とは必ずしも一致しておりません。

参考文献

- ・沖縄語辞典「国立国語研究所」
- ・沖縄語辞典 内間直仁・野原光義 編著
- ・Okinawan-English Wordbook Mitsugu Sakihara「University of Hawaii Press」
- ・広辞苑「岩波書店」

・新公用文用字用語例集

「内閣総理大臣官房総務課監修」

事務局から

澤岬弥生さん、ほんとにすばらしい経験を文にされましたね。編集するとき何度も腹を抱えました。

今、ご主人の転勤先の石垣市で暮らしておられますが、石垣市でも面白い経験をされましたね。こういうユーモアのあるお話をまた書いてくださいね。

やっと、おばあちゃんとうちなーぐちでお話ができるようになったのに、おばあちゃんは天国へ旅立たれました。しかし、きっと、どこかでうちなーぐちの勉強をしている弥生さんを見守っていらっしやと思います。

笹本美恵さんのうちなーぐちへの関心は、幼少のころの体験が、きっかけになっているようですね。その頃の日本地図の影響は大きかったようです。

文化や生活習慣、そして言葉遣いなどに興味をもたれ、前会長の城間朝昌さんの新聞記事に出会いますね。とても不思議なよい運命に引き合わせられたのを感じました。紙面の都合で次号に続けさせていただきます。

この会報を音読などの教材として使用される方がおられましたら、事務局へ連絡くださいませ。

この会報は、「うちなーぐち」にご関心があれば、会員以外の方でも投稿できます。

原稿は趣旨を変えないで、手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。 國吉(真)



沖縄語を話す会創立25周年記念パーティーから

2012年3月25日「品川区大崎シルバーセンター」

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

と[tu] とい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)	と[hwe] とー(南) にとーでーびる(有難うございます)
と[to] とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ[he] へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど[du] どし(友人) やど(宿) どー(自分)	や[?jal]* やー(君、お前) やん(言わない)
ど[dol] どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や['jal] やー(家) やん(である)
て[ti] てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空)	ゆ[?jul]* ゆん(言う)
て[te] てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ['jul] ゆんたく(おしゃべり)
て[di] ふて(筆) むーてー(喉) てきやー(秀才)	よ[?jol]* よーいー(おさな子)
で[de] でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟)	よ['jol] よーんなー(ゆっくり)
ふ[kwa] ふじ(火事) ふっちー(ごちそう)	あ[?wa]* あー(豚) あーちち(天気)
か[ka] かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ['wa] わーむん(私のもの)
ふ[gwa] にんふん(念願) ふんく(頑固)	あ[?wi]* あー(上) あーりきさん(面白い)
が[ga] がんちよー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	あ['wi] あきが(男) あなく(女)
く[kwi] くー(声) さっくー(咳) くゆん(呉れる)	系[?we]* 系ーきー(金持ち) 系んちゆ(ねずみ)
き[ki] きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	系['we] うい系ー(お祝) わじゃ系ー(災い)
ぐ[gwi] ぐーく(越来「地名」)	ん[?N]* んみ(梅) んに(稲) んなじ(うなぎ)
ぎ[gi] かーぎ(容ぼう)	ん['N] んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなと(港)
く[kwe] くー(鍬) からじくー(髪きり虫)	い[?i]* いん(縁) いだ(枝)
け[ke] けー(かゆ) ちけー(使者)	い[?i] いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
ぐ[gwe] ぐったい(ぬかるみ)	を['u]* をと(夫) をーじ(さとうきび)
げ[ge] げー(害) にげー(願い)	う[?u] うと(音) うーび(帯)
ふ[hwa] ふー(葉) なーふ(那覇)	え['e]* えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は[ha] はる(畑) はぎもー(荒地)	え[?e] えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
ふ[hwi] ふじゃい(左) ふーと(いるか)	お[?o] おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ[hi] ひやみかすん(えい、と言う)	を['o] をーじ(王子) をーれー(往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方 [?]は声門破裂音のあること、[']は声門破裂音のないことを示す。

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 とい(鳥) ×とい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)